

## 校長告辞 村上 英治 先生

ただいま卒業証書を授与致しました454名の卒業生の皆さん。ご卒業おめでとうございます。そして、保護者の皆さま、お子様のご卒業心よりお祝い申し上げます。本日はPT

いなばまき  
A会長稲葉真貴様はじめ多数のご来賓のご臨席を賜り、第27回卒業証書授与式を挙げてきますこと、大変喜ばしく思っております。

皆さんが本校に入学したのは2023年4月です。世界中を席卷し、人々を恐怖に陥れた新型コロナウイルスは少しずつ終息に向かっており、ウイズコロナの時代がやってきたといわれた時代でした。

しかし、本校入学の3年前、中学校入学時はまさにコロナの嵐に向かって船出をするようなものであったと思います。コロナという大波に呑み込まれてしまうのではないかという恐怖と不安の中で、出口の見えない閉塞感を感じながら毎日を過ごしていたことでしょう。

私はこのような状況の中でいつもこの言葉を思い出します。「失われたものを数えるな。残されたものを最大限に生かせ」私たちにとって大切なことは、私たちが今持っているものを与えられたものを最大限生かすことであって、私たちが失ったものを嘆くことではありません。

中学校時代にコロナによって奪われたこと、失われたこと、経験できなかったことはたくさんあったと思いますが、それをいつまでも引きずり嘆くのではなく、前を向き、できうる限りやれることに挑戦しようとしてきた世代がまさに皆さんであったと思います。

コロナ禍から解放されたこの高校時代の3年間の皆さんの躍動は今までのどの学年にも感じなかったものでした。喜怒哀楽を臆することなく表面に出し、伸び伸びと勉強に、部活動に、行事に取り組む姿は感動的でした。

闇の深さを知っているからこそ、光のまぶしさをより感じられ、その光の下で生きていけることの喜びを体で表現できた世代。それが皆さんです。

人生で大切なものはお金でも地位でもモノでもありません。もちろんそれらのものが一定程度人生を豊かにすることは否定できません。しかし、人生で最も大切なことは、「素晴らしい思い出」「価値ある経験」「感動に満ちた日々」を手にする事だと思っています。モノやお金はそのための道具です。「形のないこれらの思い出や経験、感動」が「形ある存在の私たち」を明日へと導いてくれ、生きる力となってくれるはずですよ。

皆さん振り返ってみてください。

高校生活1000日に及ぶドラマが一人ひとりにあったはずです。試合に敗れ悔しくて人目もはばからず涙を流した日、放課後の教室で友と語り合ったこと、全国大会を決めた勝利の瞬間、定期試験のランキング表に初めて名前が載った時の喜び、自分の思うようなパフォーマンスができず部活をやめようと悩んだ日々、グラウンドでクラスが心ひとつになって勝利目指して走った日、進路のことで悩み両親と口論となってしまった夜、好きだった人に思いを告げられず過ぎ去った日々、友と見た南の島の青い海と鮮やかな夕焼け、建学祭準備のための放課後のクラス活動。希望の大学に合格し夢がかなった瞬間。

皆さんの胸に去来する高校生活のシーンはなんでしょうか。一人ひとりがかけがえのない青春時代を駆け抜けてきた1000日の日々。それは喜怒哀楽に彩られた眩しく輝く青春の日々であったはずです。

目には見えない、形としては残っていない、しかし、確かに一人ひとりの脳裏に刻まれているこれらの思い出、経験、感動こそが皆さんの人生を豊かなものにし、これからの未来を作ってゆく力になるはずです。

さて、皆さんは皆さんの人生の主役でなくてはなりません。しかし同時に人生の主役でありながら誰かのための脇役であるということも忘れてならないのです。主役は脇役が存在しなければ輝くことはできません。脇役も主役がいてこそ、その存在の意味があります。自分の人生を主役として生きながら、同時に周りの人々にとって自分は大切な脇役であるという謙虚な自覚さえ持っていれば、人を大切にすることができるし、平和な世界が築けると思っています。

これから進む皆さんの人生に明確な答えなどありません。人生には選択があるだけです。自分が決めたこと、選び取ったことを「正しい選択」だったと「正解」にしていくことがまさに人生です。そしてこの世の中はジグソーパズル。誰一人欠けても社会は成り立っていきません。皆さん一人ひとり、ピースの位置や大きさは違えどこの社会の中での役割があるはずです。自分のピースを探し選んでそれが「正解」だったという人生を歩んでください。

夢中って無敵、青春って忙しい、頭にも心にも身体にも汗かく青春を送ってきた皆さん。夢や希望への道は一粒の汗と涙から始まるということを知った青春時代は皆さんにとつ

とわ  
て宝物です。静岡翔洋高校からは悠久の姿をとどめる美しい富士が見えます。永遠にそびえ立つ富士のように皆さんの友情もいつまでも続くことでしょう。そして、この校舎はいつまでも皆さんの応援団です。どうぞ、翔洋生らしく胸を張って、自らの抱く希望に向かって歩みを進めてください。たとえ、年老いても希望に生きるものは常に若いのです。希望こそ生きる原動力です。素晴らしい人生の「門出」となることを祈念致しまして、「告辞」といたします。

卒業おめでとう。